

Katarzyna Myćka - Biography Japanese

カタジーナ・ミチカは国際的に名高いマリンバのヴァルトウオーゾであり、室内楽プレイヤーでもある。評論家は彼女のことを「マレットと踊る奏者」、「比類なき流麗さ」、「完璧なマレット捌き」「驚くべき精密さ」と評している。

ポーランド生まれの、シュトゥットガルト育ち。そのマレット捌きから生み出されるマリンバの演奏に、専門家たちは「この上なく豊かな音質であり、音楽的な引き出しの多さは彼女の魅力である」と述べている。芸術的で優雅であり、ダンスのようなエネルギーを持つ彼女の演奏は、聴衆も心を奪われるほどのものである。

1972年に生まれた彼女はピアノとドラムの手ほどきを受けた後、グダニスク、シュトゥットガルト、ザルツブルクの各音楽院で研鑽を積む中で、「音楽表現の理想的な手段」としてマリンバを見いだした。2018年の冬季にはグダニスクの聖モニューシュコ音楽院で教授としての地位を得た。

1995年にルクセンブルク国際打楽器コンクールのマリンバソロ部門において優勝および聴衆賞を獲得し、その翌年にはシュトゥットガルト世界マリンバコンクールで優勝。そのほか数々の国際コンクールで賞を獲得している。それに伴う奨学金や、各国からのマスタークラスの招待により、若くしてすでに音楽界でのネットワークを形成している。

最も重要なマリンバフェスティバル（1998年大阪、2004年リンツ、2010年ミネアポリス）や、世界中で名の知れたオーケストラ（シュトゥットガルト・フィルハーモニー管弦楽団、北京交響楽団など）でソリストとして登場し、彼女はマリンバという若い楽器のパイオニアの一人となった。

コンサートマリンバは1980年代中頃から現在の形になったばかりである。彼女は1999年にポーランド打楽器協会から「ポーランド打楽器大使」として任命され、マリンバ人口の増加に尽力した。そのほかに若手演奏家の育成や国際コンクールでの審査員などを務め、2003年にはカタジーナ・ミチカ国際マリンバ・アカデミーを立ち上げている。

多様なソロのレパートリーには、J.S.バツハやプロコフィエフの編曲だけでなく、エマニュエル・セジオルネやアンナ・イグナトヴィッチのような現代の作曲家のオリジナル作品も含まれ、これまでに8枚のCDを録音している。

彼女は作曲家とともにたくさんの時間と情熱を捧げ、マリンバのすばらしい音を探求している。彼女の音楽が信頼に足ることは、数々のコンサートや献呈された作品が物語っている。